

ケニアのキャンプ支援募集開始！

ケニアの子どもたちに、最高のキャンプを プレゼントしてあげてください！



メトロが関わるケニアの子どもたちにとって、キャンプは特別な日です。

そもそもキャンプなどに行ったことがない子どもがほとんどで、子どもたちは前日から大興奮で、眠れない子どももいます。1日キャンプですが、キャンプの内容も食事もとても充実しているので、集合時間はとても早く、暗い道を2時間近くかけて歩いて集合場所にやってくる親子もいます。前日から何も食べずに長い道のりを歩いて来て、くたくたの子どもたちもいます。でも、朝食から、見たこともないごちそうで大喜び。はじめて口にするウィンナーなど、子どもにとっては衝撃的な体験です。

おなかがいっているにもかかわらず、参加した子どもの中には、そのおいしいごちそうを食べずに残す子どもがたくさんいます。家に持って帰って家族に食べさせてあげたいと思っているからです。でも、キャンプの1日は、たくさんの食事とおやつまであるので、たっぷり食べてもまだ持って帰るものがあり、子どもたちは好きなだけ食事をする事ができます。

また、プールで泳いだり、自転車に乗ったり、メリーゴーランドで遊んだり、全てが初めての体験です。楽しい工作や真剣な聖書のお話や…子どもたちは夢のようなひとときを、食事や生活のことを考えずに過ごすことができます。

参加できた子どもたちは、自分のキャンプ費を支援してくれたスポンサーに素直に感謝しています。そして、イエス様が自分のことを愛して心配してくださっていることをスポンサーからのプレゼントという形を通して体験することができるのです。あるイスラム教徒の母親が、子どもがメトロのキャンプに出ることを心配して一緒に参加したことがありますが、メトロのスタッフの子どもに対する公平な態度とメッセージに感動し、学校で開催されるメトロの教会学校に母親も参加するようになったのです。イエス様が共にいて働いてくださることに感謝します。

それぞれのご事情に合わせて、無理のない範囲で構いませんので、ぜひプレゼントをご検討ください。詳細は同封の申込用紙をご確認ください。



スマホでのお申込はこちらから⇒
PCからは、<https://metroworldchild.jp/ke-camp/>



8月25日(金) 締切

ケニアキャンプ支援

締め切りは、8月25日(金)です。

今月の引き落とし日！

7月18日(火)です。

今月号の目次

P2～5…ビル師からのウクライナ支援活動報告

P5…アフリカの状況

P6…日本事務所からの重要なお知らせ

ウクライナ の叫び

ビル師からの最新活動報告

赤字は日本事務所、黒文字はビル師、青文字は本部からの記事です

PRAY

お祈りください



ビル・ウィルソン師のフェイスブックの記事や、万代牧師の投稿などですすでにご存知の方々もいらっしゃると思いますが、ウクライナの支援状況について皆様に途中経過を含めてお知らせいたします。

ニューヨーク時間の6月2日(金)に、再びウクライナに赴いたビル師の活動が始まりました。しかし、今回の計画は、拉致されて虐待されている子どもたちの救出を依頼されて出かけたものの、あまりにも危険なため、情報漏洩を恐れて目的地に到着するまでその詳細や場所、活動内容まで明らかにされていませんでした。

当初知らされたのは、とにかく危険な地域をコンパスを頼りに目的地まで20キロ以上歩かなくてはならないということだけでした。

目的地までのちょうど中間地点に達した頃、一行は爆撃に遭遇し、ビル師は、足や顔を負傷したことがわかりました。しかし、負傷したまま、さらに目的地まで歩き続けなくてはなりません。

目的地までのちょうど中間地点に達した頃、一行は爆撃に遭遇し、ビル師は、足や顔を負傷したことがわかりました。しかし、負傷したまま、さらに目的地まで歩き続けなくてはなりません。

負傷した翌日午後ようやく目的地に到達し、拉致されている子どもたちに会うことができました。4日間そこに滞在した後、ビル師は傷の治療のために入院することになりました。彼の怪我の状態は、メトロのスタッフが考えていたよりも深刻で、指2本と肋骨3本を骨折し、左耳を損傷、顔面には重度の火傷と裂傷を負っていました。さらに、左目も損傷していましたが、その程度は精密検査をしなければわからないという状況でした。



しかし、その状態の中でも、ビル師からは、「ご支援くださる全ての皆様に、どうか、くれぐれも私の深い感謝と愛を伝えてほしい。遣わされた場所でやるべきことはやったが、まだやり遂げてはいない状況で、祈ってくれていることを心から感謝しています」という連絡が本部に入りました。

ビル師の電話は破損しており、使えない状態になっていましたが、使えるようになるとすぐに、現状の最新報告と治療のためにアメリカに戻る予定だという連絡が入りました。そして、現地では出会ったディマという小さな男の子のために、祈ってほしいと言いました。ディマがどのように虐待されたかを話そうとしていましたが、その時には、どうしても最後まで話すことができない状態でした。

3日後、ニューヨークのメトロのスタッフミーティングで、ビル師が残したボイスメッセージが流され、それを聞いた全員が涙を流していました。

彼は、世界中のメトロのスタッフ、そしてニューヨークにいる私たち全員に向けて、どれほど感謝しているか、どれほど私たちを誇りに思っているか、メトロの日曜学校を通して神が働き続けておられること、そして私たち全員が毎日110%の力を発揮しているおかげで毎週世界中で32万人の子どもたちが福音を聞いていることを感謝していました。ビル師は、耐え難い痛みにも襲われながらも、皆を励まそうとしていたのです。それがビル師である私たちが皆知っています。

ウクライナで出会った子どもたちのことをここでご紹介するのは、特に日本の方々にはためらわれます。残酷な話が苦手な方には、これ以上読み進めることをおすすめしません。

ビル師が向かった場所にいた子どもたちのことで、彼がどれほど心を痛めているか、言葉では言い表せません。そこにいた子どもの数は全部で289人。前回の連絡で聞いたディマという小さな男の子は、兵士に舌を切り取られたのでした。片方の耳を切り落とされたリリーもいました。そのほかにも…そのような状況の中で、彼は自分がやるべきこと、頼まれたこと、遣わされた目的を果たしたのです。ベストを尽くしたとは言え、予期しなかったものを見、それに対して何かをし

ようとしたのです。早く行動しなければ取り返しの付かないこととなります。

その後、ビル師はアメリカに戻って治療を受け、6月12日にはリハビリ病棟に移りました。業者がビル師の携帯を修理したところ、移動中にハッキングされていたことがわかりました。ウクライナの戦いはまだ終わっていませんし、彼の戦いもまだ終わっていません。家に連れ戻さなければならない子どもたちがいるのです。治療中もずっとその作戦に取り組んでいました。皆さんもご存知のとおり、ビル師は不平不満を言う人ではなく、ただ進み続けます。

6月17日には、リハビリ病棟からも退院し、拉致された子どもたちを救出するという最重要作戦を開始するために、5人チームの実行班を編成しながら、同時にシンガポールで予定されているメッセージツアーの準備も行っていました。現地の状況は、日に日に切迫していました。子どもたちがいる場所のすぐ近くまで砲撃が及び、さまざまな面で被害が出ています。食料はすぐに底をついてしまいます。行動を起こすにしても、今すぐしなければならないことは明白でした。

6月17日に Facebook(フェイスブック)に掲載されたビル師からのメッセージです。

私の治療は終了しました。今は行動する時です。病院にいても、医者が私にできる治療は、もうそんなにありません。私の傷はいずれ癒えるのです。しかし、この子たちの傷は一生治らないのです。1週間以内に彼らの食料は尽きてしまうでしょう。それ以上の食料は来ないのです。敵の飛行部隊は侵入を続け、ロシア兵も侵攻してきています。その方向に進んでいるのは知っていましたが、こんなにも早く子どもたちの所に到達するとは思っていませんでした。

現地で子どもたちと4日間を過ごしたことは、私にとって、選ばれた本来の目的と同じくらい重要でした。ドローンによる被弾で怪我をしたことは、確かに当初の想定外のことでした。しかし、この種の任務の性質上、特に敵の支配地に入る場合はその可能性は十分にあるのです。

だから、この子たちを家や家族のもとに帰すための働きを危険な目に遭わずに果たすことはできないと思っていました。そうしなければ、彼らが生きて脱出することはできないとわかっていました。私の中では答えは簡単でしたが、それを実現するためのプロセスには、しっかりとした計画が必要でし

た。それはわかっていたはずなのです。私がいつも言っているように、「簡単なことなら、誰もがやっていることだ」から。

過去50年間、言い続けてきたように、「必要は召し」なのです。だから、今回も必要が召しとなったのです。私は、今回のこともイエスの名において満たされなければならない必要であると、「召し」として受け止めました。正しい「召し」であったと信じています。

今回の計画は次のようなものです。現地で私と緊密に働く通訳とその他4人、計5名を集めました。計画では、一度に20~30人の子どもたちをトラックの荷台に乗せて運ぼうとしています。以下の3カ所から最初の数回は、小さな子どもたちを優先的に救出しようと考えています。地点1:289人の子どもたち(私が4日間滞在した場所です)。地点2:154人の子どもたち(ここにも行く予定でしたが、今回の事態によって行けなくなりました。通訳の方が、現地把握に行ってくれました)。地点3:87人の子どもたち。これは2日前にメンバーの一人が最終的に確認した人数です。

各走行のために、トラックの新しいタイヤと19リッター入りのガソリン缶5つが予備ガソリンとして必要です。チームは、子どもたちを家に連れ戻すために、ロシア軍の支配地域まで裏道を通らなければなりません。子どもたち1人につき約87ドルの経費が必要です。これはガソリン代、子どもたちの道中の食

事代、そしてトラックの荷台で子どもたちの世話をする人たち、これらの場所を往復するための費用などです。これには賄賂も含まれます。こういうことをした経験のある人にとっては、それがどういう仕組みになっているのか、特に世界のそのような地域では、それは普通のことだということをご存知のほうです。

こんな大それたことをする割には、大した金額ではないように感じるでしょう。一体何回往復しなくてはいけないのか正確にはわからないのですが、私の通訳であるチームリーダーは、およそその金額で作戦を実行できると確信しています。

通訳者である彼女が子どもたちの面倒をみている様子や、チーム全員がほとんど手当ももらわずに子どもたちのために働いている様子、ディマや足を吹き飛ばされた女の子に対処している様子を見ていました。彼女は、自分ならできる、全員が帰宅するまでやり続けると言ったのです。



ウクライナの叫び

私たちはみんなで、すべての子どもたちが家に帰れるまで、この活動を止めないことを決意しました。

ウクライナでは、戦争が始まってからのこの16ヶ月間で、2万人以上の子どもたちが家族から引き離され、拉致されています。彼らは、まさに多くの皆さんが想像するような状況で拘束されています。私は、すべてができるわけではないことはわかっています。しかし、何かしなければならぬこともわかっています。ベストを尽くして、何にせよやり遂げることです。最初から、それが私たちのやることだと言ってきました。今こそ、それを実行する時なのです。もう時間がありません。

2週間前現地に行った時、ある若者と話をしました。私は、「この子たちを助けよう」と言って、何年も前に見た像のことを話しました。それはイエスの像でしたが、そのイエス像には、手がなく、「イエスには私たちの手しかない」という言葉が書かれていたのです。その若い働き人は、「私たちがイエスの手だ」と言い、続けて、「私には両手がある」と言いました。私は、「そう、私にも」と答えました。さあ、仕事に取り掛かりましょう。

残された時間は少ないのです。この救出作戦は、6月20日の初走行から始まります。ご協力いただける方はごメロ事務所に一報ください。感謝しています…。

6月20日のビル師からの報告です。

19日の夜に、通訳の女性から、出発の準備ができたという電話が入りました。話をしていると、後ろで子どもが何か言っているのが聞こえましたが、何を言っているのかわかりませんでした。彼女は、それがディマだと言いました。彼は舌を切り取られたので、うまく話すことができなかったのです。

彼女がディマに、ビル牧師が準備してくれたので、家に帰れると伝えたので、彼は興奮して泣き出し、電話でありがとうと言おうとしていたのです。

この紙切れは、私が子どもたちと別れて治療を受ける前に、ディマからもらったものです。それは彼の指紋とハートの絵でした。破れた紙袋に泥を使って指で描いて、私にくれたのです。



彼は私に「愛している」と言おうとしていたのです。

翌日午前7時に最初のトラックが出発する予定で、ディマは、その最初の走行に乗車する子どもの一人の予定でした。計画通り、20日の朝、最初のトラック1台が子どもたちを乗せて、家に連れ帰るために現地を出発しました。子どもたちが本来いるべき場所に戻るよう、皆、懸命に働いています。

同時に、シンガポールでは、支援教会でビル師のメッセージツアーの準備が進んでいます。6月23日のビル師からの報告です。

6月23日(金)の夕方に、ついにディマが家に帰り、家族と再会したという一報が入りました。通訳が電話で、最初の救助活動についての最新情報を伝えてくれたのです。いくつかのトラブルがなかったわけではありませんが、彼らはやるべきこと



THE FIRST RUN IS DONE.
SECOND RUN JUST LEFT.
MANY MORE TO BE MADE.

最初の救出はやり遂げました。
2回目の救出に出発したところです。
まだまだ働きは続きます。

を分かっており、必要なことは何でも喜んでやってくれました。それは、このようなことを共に行うときには、関わる全員が共有しておかなければならない心構えであることは皆さんもご存知の通りです。

ディマの母親は叫び声を上げて泣き、腕にしっかりとディマを抱きしめていました。私たちのチームの涙、家族の涙、そして近所の人たちの涙があふれていました。母親は、拉致された後に彼が舌を切り取られたことを知りませんでした。しかし、彼を見とたん、ただただ抱きしめていました。

彼女はその通訳の女性に話そうとして一生懸命言葉を探していましたが、ただこう言いました。「ありがとう…ありがとう…ありがとう…」と何度もそう言い続けました。「私のディマを連れ戻してくれてありがとう! この子は私のいのちです。私は彼を心から愛しています。」

その時ビル師は、数時間前にシンガポールに到着したばかりで、翌日から始まる説教ツアーの準備に取りかかるところでした。一報を聞いて泣いていました。きっと皆さんも今涙していると思います。

私がこの子たちを家に連れ戻そうと肉体的、精神的、感情的に始めたことに、多くの方々が賛同し、犠牲を払い、祈ってくださいました。たとえそれがたったひとり子どもだったとしても、それだけの価値はあります。あなたもそれを理解しているでしょう。

その通訳は、ディマが最後に家に降ろす子どもになるだろうと考えていました。他の子どもたちが皆、家に戻った後、彼女はトラックで移動中に子どもたちに与えていた食料の残りをディマの家族に渡すことができました。

トラックは今、2回目の子どもたちを迎えに戻っています。それが簡単ではないことは誰もが知っていますが、聖霊が彼らとともにいて助けてくださることも知っています。

「パートナーシップの力」などというものは存在しないなどと言えるでしょうか。それがあられるのはご存知でしょう。また、私たちに力を与えてくださるキリストによって、私たちは何でもできることも知っています。

イエスが十字架に向かわれた時、たとえそれがたったひとりのためだったとしても、それでもイエスは十字架に向かって行かれたことを私は知っています。そう、私たちは皆、彼がそうしたであろうことを知っています。

ディマの母親が言ったように、私はさらに何度か言わなければなりません。ありがとう、ありがとう、ありがとう。

まだトラックは目的地に向かって走行中です。引き続き状況をお伝えします。

ビル師は、シンガポールの協力教会を巡り、メッセージツアーを行ったあと、ケニアを中心としてメトロの働きが、各国

に急速に拡大しているアフリカのメトロの訪問と調整に向かいます。その間にもウクライナ現地からの作戦の報告を受け続けています。

3回目のトラックも戻っている頃でしょう。どうか皆様も、今回の作戦が最後まで無事に成功し、全ての子どもたちを家に連れて帰ることができるようにお祈りください。

また、今回の作戦だけでなく、食糧支援や被災者の治療なども続けていますので、必要は多くあります。ご自身だけでなく、周りのウクライナ支援をしたいと願っておられる方々にもご協力をお願いしてください。

よろしくお願いいたします。

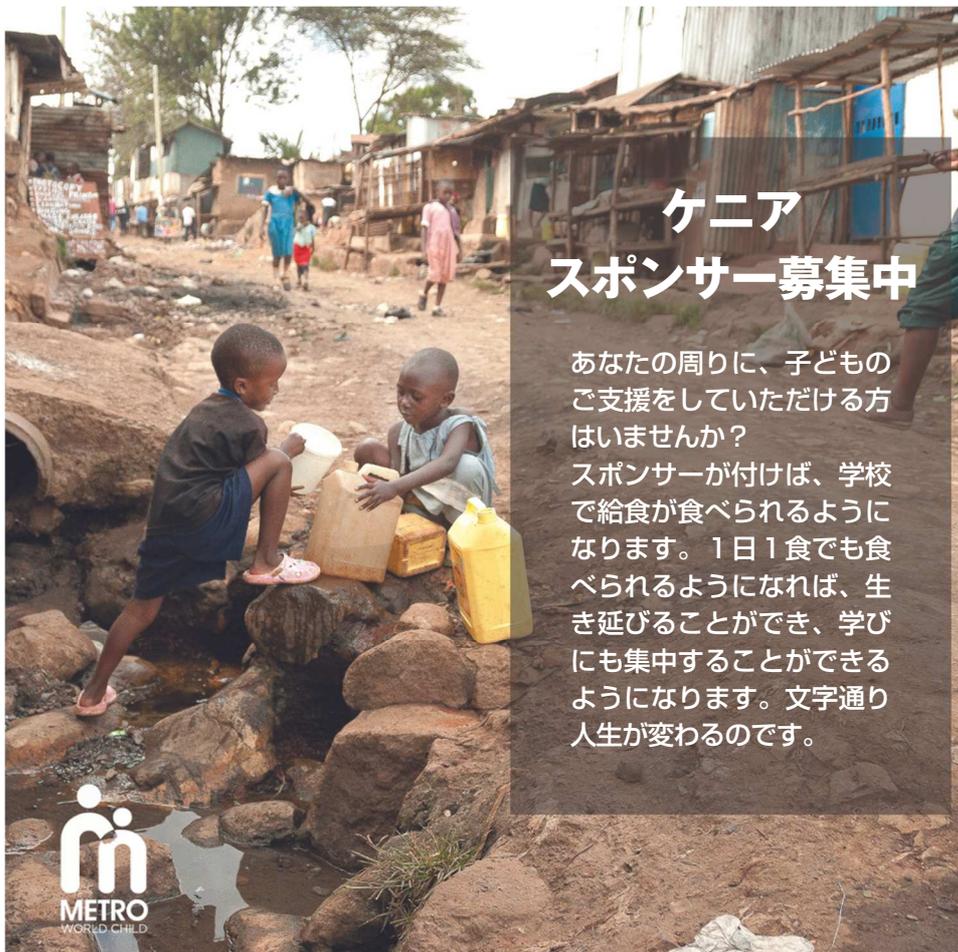
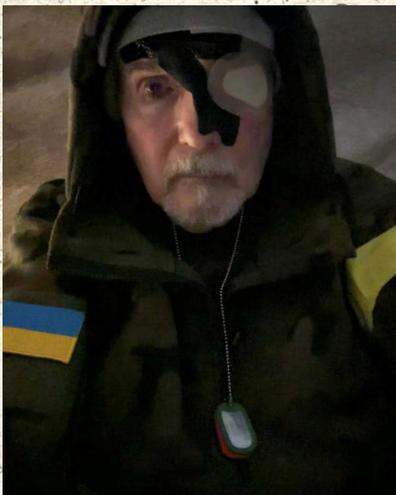
お祈りとご支援に、いつも心から感謝しています。そのご支援がなければ、私たちがたとえどのように素晴らしいことを決断しても、その計画は一つ一つ実現できないのですから。

皆様の上にも、主イエスからの豊かな祝福がありますようにとお祈りします。

下記のサイトからご支援いただけます。

<https://metroworldchild.jp/offering/>

スマホはこちらから⇒



ケニア スポンサー募集中

あなたの周りに、子どものご支援をしていただける方はいませんか？

スポンサーが付けば、学校で給食が食べられるようになります。1日1食でも食べられるようになれば、生き延びることができ、学びにも集中することができますようになります。文字通り人生が変わるのです。

ケニアを中心として、メトロの関わるスラムの子どもたちの数は、アフリカ各地で急速に増えています。

メトロが学校内で活動できるように、学校への門戸が次々に開かれています。一つの学校で教会学校をすることができれば、一度に数百人から数千の子どもたちにイエス様の話をすることができます。

しかし、その中には、苛酷な状況で生きる子どもたちも数多くいます。



←お申込み

支援詳細→



日本事務所からの重要なお知らせとお願い

支援は続いています！

メトロ・ワールド・チャイルドでは、ウクライナ市民支援もトルコ・シリア地震の復興支援も継続中です。支援献金も引き続き受け付けていますので、よろしくお願いたします。

どのような支援も、現地に直接の知り合いや支援者、メトロのスタッフがいないければ、実現することは困難です。世界的な大きな団体が資金を集めても、実際に現地に出かけて支援することは困難な場合がほとんどで、メトロがその働きを担うこともあるのです。

いつもそこにいて活動を続けているメトロならではの機動力と人間関係が、最終的に支援を必要としている人々に届くために必要なのです。

ビル・ウィルソンセミナー！

コロナ禍で開催できなくなっていた、ビル・ウィルソン師セミナーを来年ようやく開催することになりました。

ビル先生は、シンガポールや台湾、韓国まで来られていたのですが、日本だけが開催できていない状況でした。スポンサーの皆様にご直接会ってお礼を言わなければならないので、来年は必ず開催したいということです。

開催時期と地域を現在調整中です。ご自分の教会や地域で開催をご希望の方は、ご希望をお知らせください。

また、お近くの会場で開催されるセミナーに、お知り合いの方と共にお休みを取ってでも必ずご参加ください。よろしくお願いたします。

！ 違いを生み出す月曜日！

メトロの働きは各国で急激に拡大し、サポートの必要な子どもの数は、飛躍的に増えています。新規スポンサーを常時募集していますので、よろしくお願いたします。コロナや戦争で、貧困地域の状況は悪化し続けており、ケニアでは、以前から食事をまともに食べることができない子どもがたくさんいましたが、今はさらに深刻な状況です。現地を訪問した若いスタッフは、その悲惨さを目撃して、「違いを生み出す月曜日」のキャンペーンを提案。一人でも多くの子どもにスポンサーを見つけようと努力しています。どうぞ、身近な方々にメトロをご紹介ください。

メトロ紹介&申込サイト⇒

<https://metroworldchild.jp/metrogenerallp/>



日本事務所よりごあいさつ！

本格的な夏を迎えようとしています、皆様お元気でしょうか？

レポートの中でもご紹介していますが、ビル先生はウクライナの子どものための支援を続けています。文字通り、命がけの救出を決意し、ご自身も負傷しながらも、今回も主の御手により命が守られていることを感謝します。

日本人の私たちならば、まだしばらくの間入院するほどの負傷だと思いますが、ビル師を止めることはできません。自分自身の経験からくる使命に燃え、スポンサー募集の各国ツアーや、各国のメトロの活動視察と調整に出かけ、その合間にウクライナでの支援を続けています。

どうぞ、メトロの全ての働きが守られ祝福されますようにお祈りください。

皆様の上にも、主からの守りと豊かな恵みが注がれますようにお祈り申し上げます。

日本事務所代表 万代栄嗣(まんたい えいじ)



メトロ・ワールド・チャイルド日本事務所

所在地 〒104-0061

東京都中央区銀座5-14-6

橋ビルⅡ7階 TFC内

電話 03-6264-7370 (松山事務所 089-992-9020)

FAX 089-925-1501

メール metrojapan@mission.or.jp

URL <https://metroworldchild.jp/>



すべてのお振り込みは、下記宛にお願いいたします。

ゆうちょ銀行：一六九店 当座預金 0041610

郵便局：記号番号 01650-3-41610

口座名義はどちらも同じ

メトロ・ワールド・チャイルド・ジャパン